

令和7年度第2回美濃加茂市地域公共交通活性化協議会 議事録

日時:令和7年10月2日(木)14時58分～16時32分

場所:生涯学習センター201集会室

(1)開会

(2)あいさつ

○会長(美濃加茂市長):

本日は大変お忙しい中、第2回美濃加茂市地域公共交通活性化協議会にご出席賜りまして誠にありがとうございます。あい愛バスをはじめとする地域公共交通の運営に当たる、多くの方々にご理解とご協力をいただきながら、本日まで進めていくことができました。改めまして、関係機関、企業・団体、市民の皆様にご心より感謝申し上げます。

本日の議題は「地域公共交通計画骨子案」についてです。市として公共交通をより良いものにしていくために、これまで協議を重ねてまいりました。

また、本日の報告事項は「AI デマンドバス」についてです。現在、実証運行を実施しており、多くの利用者の方々から好評をいただいております。公共交通の活用によって、一人ひとりの生活がより豊かになるという実感も得ているところです。新たな取り組みには予算を要しますが、利用されないの方々にもご理解とご協力を賜りながら、着実に進めて参ります。

配布されておりますチラシにも記載のとおり、担い手不足など、昨今の社会情勢に直面する中で、公共交通をどのように維持・発展させていくか、改めて考える必要があります。公共交通は、行政のみならず、皆様と連携・協働することでこそ大きな効果を発揮するものと認識しております。

地域の拠点である美濃太田駅では、南口で再開発に向けた動きもございます。自動車の利便性を確保しつつ、公共交通を中心としたまちづくりを進めてまいります。

今後も、事業者の皆様のご強みや課題を共有しながら、地域公共交通計画の実現に向けて取り組んでいきたいと思っております。委員の皆様には忌憚のない意見を賜りたく、貴重なお時間を頂戴いたしますが、ご協力とご理解を重ねてお願い申し上げます。本日のご挨拶に代えさせていただきますと思います。

(3)議題

議第1号 第3次美濃加茂市地域公共交通計画骨子案について

○事務局:「議第1号 第3次美濃加茂市地域公共交通計画骨子案」を説明

○下平委員(岐阜運輸支局):中部運輸局では、今回策定される美濃加茂市地域公共交通計画を「地域公共交通計画のアップデート」のパイロット的なものしたいと考えています。策定までにいろいろご意見を出させていただくかもしれませんが、よろしくをお願いします。

5年間の計画期間中に、地域の状況が変化し、計画の見直しが必要な箇所も出てくるかもしれませんが、普段のバスの利用状況のデータをどのように取り、それをどう反映させていく予定ですか。

○事務局:あい愛バスは、運行事業者が全便で各バス停の乗降者数を記録した日報を作成しており、そのデータを用いてモニタリングを行い、今後の改善に活用していきたいと考えています。

○松本委員(名城大学):毎年詳細に分析されていますので、今後もこのPDCAサイクルを回していくことを計画にも明記するとよいと思います。

○藤井委員(美濃加茂市健寿連合会):計画の区域に「隣接市町との連携は個別に協議調整」と記載されていますが、どのような調整を行っていく予定ですか。

○事務局:今年度、みのかも定住自立圏公共交通基本構想の策定を予定しています。来年度には、この構想に基づき、圏域の8市町村で各市町村の公共交通とどう連携していくか等、具体的な協議調整を進めていく予定です。

○藤井委員(美濃加茂市健寿連合会):東鉄バス八百津線は利用が低迷していますが、人口減少が進む中で今後の運営をどのように考えていますか。

○事務局:東鉄バス八百津線は、中部国際医療センターへの通院や八百津高校への通学に利用されているため、残していきたいと考えています。利用を増やす取り組みもなかなか難しいですが、あい愛バスの重複区間を見直すなど、路線の維持に向けた取り組みを行いたいと思います。

○永井委員(東濃鉄道(株)):八百津線の利用者減少の要因としては、八百津高校の生徒数の減少が大きいと考えられます。JR 太多線、名鉄広見線、YAO バスを乗り継ぐ方が定期代が安いいため、本路線を使って行かれる生徒さんが少なくなっていることも理由として考えられます。八百津高校への通学にあわせたダイヤで運行していますが、状況によっては八百津町から美濃加茂市方面への通勤・通学にあわせたダイヤにすることも検討が必要かと考えています。

○藤井委員(美濃加茂市健寿連合会):人口が減少する中で、利用者数等を大きく増加させる目標値を設定されていますが、指標設定の考え方を教えてください。

- 事務局:公共交通のニーズが高くなっており、高校生の利用者も増加しています。人口減少とともに高齢化も進み、公共交通ニーズも増えていくと考えています。今後もバス路線を改善していくことによりリピーターが増えることで、十分達成できる数字ではないかと考えています。

- 藤井委員(美濃加茂市健寿連合会):観光事業について、取り組んでいることがあれば教えてください。
- 事務局:観光事業については、連携が上手くいっていない点が美濃加茂市の弱い部分だと感じています。観光施設と公共交通をミックスさせた企画等を今後考えていきたいと思います。

- 藤井委員(美濃加茂市健寿連合会):指標 3 の乗り継ぎに対する不満度の目標値の設定は、現状の実績値と同じ数字になっていますが、どのような考え方ですか。
- 事務局:現状、ダイヤは美濃太田駅の時間に合わせていますが、長良川鉄道やあい愛バス間の連携ができていないため、ダイヤ改正やデジタルサイネージ等を用いた時刻表の改善に乗り継ぎを改善できるように取り組んでまいります。

- 藤井委員(美濃加茂市健寿連合会):指標 7 の地域懇談会の目標値が実績値より減っている理由は何ですか。
- 事務局:以前より毎年 2 件は行うようにしていますが、昨年度は AI デマンドバスの実証運行にあたり通常よりもかなり多く開催しました。毎年 12 件を行うことは難しいため、目標値としては 2 件以上としています。

- 会長(美濃加茂市長):川辺町と坂祝町から地域交通を連携できないかとお声がけいただいています。川辺町は福祉バスの美濃加茂コースが市内に乗り入れ、坂祝町も美濃太田駅や中部国際医療センターに乗り入れているため、あい愛バスと接続することにより負担軽減や利便性向上に繋がるのではと考えています。八百津町とは、引き続き東鉄バス八百津線を維持していきたいと考えています。白川町と東白川村では公共交通の財政負担が非常に大きいと聞いており、連携により何かできるのではないかと考えています。
資料中の人口は令和 2 年度の国勢調査結果を記載していますが、嬉しいことに美濃加茂市の人口は 4 年前の見込みよりも増加しています。このような現状を踏まえ、2035 年の目標人口を 6 万人として各種計画を立てています。人口増加に対して、太田地区や古井地区の空き家エリアに人口を戻す取り組みを検討しています。公共交通の活用を強みとして、人口増加や高齢化の低減に繋げていき、高齢者の方々を支えられる街を目指して公共交通計画の中で検討していきたいと考えています。

○松本委員(名城大学):乗り継ぎについては積極的に改善することですが、目標値が控えめな数値になっています。改善することを踏まえた設定をしてもよいと思います。目標値の数字については、あくまでも目標値のため小数点は丸めてもいいかもしれません。

○松本委員(名城大学):地域公共交通計画は、あい愛バスだけの計画ではないため、評価指標には、JR や長良川鉄道等の指標を入れた方がよいと思います。先ほどの話で東鉄バスの目標設定は難しいかもしれませんが、鉄道会社とは計画策定を機に協議をして指標設定してもらえればと思います。

行政負担額を指標に入れることについては、路線を廃止すれば達成できてしまい、本来の趣旨と異なる方向になる可能性があります。今回は、年間利用者数を増加させることで達成させることをうたっており、セットの指標と考えることで、行政負担額との両立を図る考え方になっているため問題ないと思います。

指標6や指標7は、毎年実施できたかを確認するものなので、評価指標ではなく、モニタリング指標に掲げた方がよいと思います。

今回の仕様では、目標と各評価指標の対応やつながりが分かりづらいため、どの目標がどの評価指標に対応しているか分かるようにするとよいと思います。

○松本委員(名城大学):長良川鉄道の利用者数を指標に入れることは可能でしょうか。

○佐々木委員(長良川鉄道(株)):指標に入れることは問題ないです。

○松本委員(名城大学):バリアフリーの改修や駅舎の改修等、国の補助金がいろいろありますが、補助を受けるためには計画への位置づけが必要になってくるので、指標にも入れておくとよいと思います。

○松本委員(名城大学):骨子案について、この場ですぐに意見を出すのは難しいので、委員の皆様には内容を確認していただいたうえで、10月17日(金)までに事務局へご連絡ください。特に、事業者の方々には関係する部分についてはしっかり確認していただき、市民の目線で不足している点などもぜひご指摘ください。

○松本委員(名城大学):詳細な意見は別途いただくものとして、骨子案の大きな方向性としては原案どおりで承認いただけますか。

○各委員:異議なし

→ 議題第1号については、骨子案の方向性を了承し、詳細意見は後日各委員から提出を受けることとした。

(4)報告

報告事項1 AI デマンドバス「チョイソコみのかも」について

○事務局:「報告事項 1 AI デマンドバス『チョイソコみのかも』について」を説明

○事務局:チョイソコみのかもの PR 動画を再生

○松本委員(名城大学):実際に登録の仕方や乗り方が分からないという方も多いため、このように動画を制作することは非常に良い取り組みだと思います。各団体にも見てほしいと思いました。

○松本委員(名城大学):実証運行が12月までで、本格運行が来年10月からなので、令和8年1月で一度運行が途切れるという認識でよろしいでしょうか。

○事務局:予算上の問題や本格運行に向けた分析や準備のために時間が必要となるため、運行は途切れることとなります。

○松本委員(名城大学):やむを得ないとは思いますが、少しもったいないと感じます。

○会長(美濃加茂市長):運行が途切れることについては、市の政策会議でも利用者の方々との関係が切れるのではないかと議題に上がっています。予算や車両切替期間の問題があり難しいですが、何か対応できないかとも考えています。利用者の皆様や関係者の皆様からご意見いただければと思います。

○松本委員(名城大学):運用上については新太田タクシーと詰めていただき、ある程度の期間は空かざるを得ないとは思いますが、上手くできるような方法があれば、何らかの措置ができるとよいので、検討いただければと思います。

○下平委員(岐阜運輸支局):本格運行開始にあたって、新太田タクシーさんの運転手の数は問題ないでしょうか。

○事務局:新太田タクシーさんと協議の上、問題ないことを確認しています。

○木村委員(岐阜県バス協会):「どらなび EXPO2025 秋について」を説明

(5)閉会

○事務局:これを持ちまして、本日の地域公共交通活性化協議会を終わらせていただきます。本日はありがとうございました。

以上